

毎週日曜発行
2026 3/8

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



あの日の子どもたち



命を守る 君との約束

想像してみてください。大切な家族がある日突然、いなくなってしまうたら。あなたは どう思うでしょう。きっと、胸が締め付けられるような悲しみに襲われるはず。涙が止まらない人もいると思います。

もう一度、想像してください。逆に、あなたが突然、いなくなってしまうたら、家族はどう思うでしょう。きっと言葉にできないほど、嘆き悲しむはず。

あの日、そんな深い悲しみに打ちひしがれた人たちが、東北にはたくさんいました。15年前の2011年3月11日、東日本大震災が

発生したのです。皆さんが暮らしている街は激しい揺れに襲われ、海の近くの街は、巨大な津波にのまれました。誰もが、当たり前毎日がずっと続くと思っ

ていました。その日常が一瞬にして、断ち切られてしまったのです。震災を特集した今週の「こども新聞」は、震災を経験した当時の子どもたちが、今の皆さんにつなぐ「備えのバトン」です。登場するのは全員、15年前は小学生以下の人たちです。一人一人の言葉には、震災を経験していない皆さんに、どうしても伝えたい願いが込められています。

自然は普段、おいしい食べ物、美しい景色などを与えてくれます。でも、たまに地震、津波、大雨、噴火などの災害となつて、牙をむくことがあります。

そんなとき、あなたは どう行動すれば良いのでしょうか。家族には、どう行動してほしいのでしょうか。大切な家族と必ずまた会えるように、「あの日の子どもたち」のメッセージを通して、命を守る行動を家族と考え、実行しましょう。

東日本大震災15年特集

「備えのバトン」つなぐ



津波被害が大きかった東松島市大曲地区の現場で武山さんに当時の様子取材するこども記者

こども記者被災地取材

こども記者が2月7日、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた宮城県東松島市大曲地区を取材しました。説明してくれたのは、当時同市大曲小4年生だった武山ひかるさん(25) 〓 同市在住 〓 です。

取材には、石巻市桃生中1年及川朝香莉さん(13)と、同河北中1年永沼好将さん(13)、同大谷地小6年内海蘭華さん(12)、東松島市鳴瀬桜華小6年眞藤大空さん(12)、松島町松島二小5年奥田湊さん(11)が参加しました。

5人は被災現場に立ち、武山さんの話を聞きながら、当時の様子を想像するとともに、同市大曲市民センターで次の災害に備えるために自分たちにできることを考えました。(2面に続く)

- 2面 こども記者が取材
- 3面 こども記者の誓い
- 4・5面 3・11の記憶と伝えたいこと
- 6・7面 避難所を照らしたファイト新聞
- 8・9面 3・11の記憶と伝えたいこと
- 10・11面 あの日の子どもからメッセージ
- 12面 知っておこう 東日本大震災のこと

きょうの紙面